

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2018年6月1日
(No. 90)

2018
*
6月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景（18）

新河岸川（富士見江川合流点）

浦和所沢バイパスをくぐって上流へ。左岸の少し離れたところには木曽目堤跡の道路が並行。右岸側の斜面林の下には旧山下河岸跡と、その上流側に旧河川の名残の水たまりが続き、さらに上流は旧河川跡を利用した河川防災ステーション。木染橋の上流右岸は1960年代に開発された寺下住宅団地。住宅地の上流側に接している小さな水路が旧富士見江川で、1990年頃に改修された現在の合流点はさらに上流になります。富士見江川は富士見市が管理する準用河川。川越街道方面の三芳町から富士見市へと住宅地内は三面張り水路で、東上線東の親水公園を経てから川らしくなります。写真の左側が富士見江川。

（天田 眞）

NPO 法人エコシティ志木

2017 年度の報告

● 2017 年度の活動報告

◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

①里山の手入れ：「いろは親水公園こもれびのこみち」「西原ふれあい第三公園」の2か所の斜面林の日常管理作業（清掃、落葉掃き、下刈、中低木の除伐・剪定、急斜面保護、希少植物の保全等）を行いました。（計3回／月）

②河川敷の清掃：柳瀬川右岸志木中学校付近と新河岸川右岸富士下橋下流の2か所で河川敷のごみ拾いを行い、県の「川の国応援団」の活動として報告しました。（計1回／月）

③外来植物駆除事業

(a) いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」保全作業：カヤネズミやオオヨシキリが棲むカヤ原の保全のため、5～8月にオオブタクサの駆除作業を行いました。（4回）

(b) 柳瀬川・外来植物駆除作戦：志木中学校生徒約150名が参加し、柳瀬川右岸の志木中学校付近で、主にオオブタクサの駆除作業を行いました。（1回）

◆調査、研究事業

①侵略的外来生物県民参加モニタリング調査：埼玉県の事業に協力し、志木・富士見・新座市内の8か所で外来生物（主に植物）の定着状況について調査を行いました。（8回）

②身近な川の一斉調査：「新河岸川水系」と「全国」の調査に参加し、志木中学校科学部と共に、市内7か所の水質を調査しました。（1回）

③市内いきもの調査：市内各所で植物を中心とした調査を行いました。（6回）また、志木中学校前では水生生物調査を兼ねて柳瀬川水族館を開催しました。（4回）

◆観察会及び学習・教育事業

①柳瀬川であそぼう：親子向けの魚捕り体験等の川遊びイベントを企画しましたが、雨天のため中止となりました。

②自然観察会：春に柳瀬川と西原斜面林で、秋に柳瀬川と水谷田んぼで自然観察会を開催、また、冬には柳瀬川で野鳥観察会を開催しました。（3回）

③「カヤネズミ原っぱ環境応援作戦」：いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」で、カヤネズミの生息環境保全への意識醸成を図る親子向けのイベントを開催しました。（1回）

④ぶらり散歩：「柳瀬川ぶらり散歩」として、狭山湖方面と多摩湖方面の2回を企画しましたが、いずれも雨天中止となりました。又、新河岸川・柳瀬川の合流点の上流側で、旧河川や旧堤防を歩く企画を実施しました。（1回）

⑤小学生の環境学習への協力：小学校の総合学習やクラブで講師を務め、地域団体の柳瀬川での生き物調査に協力しました。（6件）

⑥市民講座等での講師：県環境部水環境課の「川の再生ボランティア体験講座」の開催に協力し講師も務めました。また、新座 HUG ネット主催の野火止用水分水路跡のフィールドワークで講師を務めました。（2回）

⑦ボランティア体験者受け入れ：社会福祉協議会の「地域ボランティア団体体験プログラム」で高校生・大学生を受入れました。（6名）

⑧イベントへの参加・出展：地域の催事等に参加し、出前水族館や標本展示、活動紹介展示や資料配布を行いました。（4件）

◆出版、広報事業

①エコシティ志木通信の発行：本紙とイベントカレンダーを年4回発行しました。

②ホームページ管理：エコシティ志木ホームページ及びブログで情報発信を行いました。

③活動紹介展示：催事で当会の活動状況の展示を行いました。（4件）

④（仮称）『いきもの図鑑』刊行事業：引き続き作成作業を続けていますが、刊行は来年度になります。（会議33回）

◆エコミュージアム事業

①志木まるごと博物館 河童のつづら：見直し作業を予定したものの、十分にはできませんでした。

● 2018 年度の計画

上記の2017年度事業は全て2018年度も継続して取り組みます。（天田 眞）

柳瀬川のあらまし (5)

清瀬水再生センターとビオトープ

東川合流点の右岸側、関越道から埼玉県境までは多摩地区で最大規模の清瀬水再生センター（下水処理場）。1981（昭和56）年に運転開始し、処理区域は東村山市・東大和市・清瀬市・東久留米市・西東京市の大部分、武蔵野市・小金井市・小平市・武蔵村山市の一部で、これらには柳瀬川流域以外の地域も含まれています。処理槽の上部は人工地盤が造られ清瀬市の運動公園になっています。柳瀬川に面した部分には処理水や地下水が流れる水路や池を囲んだ「清瀬下宿ビオトープ公園」（約4,300m²）がつくられ常時公開されていますが、小学校の総合学習にも使われています。下流側の都県境に接する部分は、汚泥ガス化炉施設で温暖化ガスの発生を抑制するものとのことです。

柳瀬川への放流口からは、処理済みの水が勢いよく吐き出され、水面には泡が流れ、付近はどぶの臭いが漂っています。ここから柳瀬川の水は大きく変化します。水量は2倍に、水温は上昇し（特に冬は差が大きく湯気が上がる）、水質は大幅に悪化します。

大規模開発が進む大和田地区の区画整理

左岸はずっと所沢市ですが、右岸は水再生センターの下流から新座市に入ります。この右岸一体（清瀬市境界・武蔵野線貨物ターミナル・川越街道・柳瀬川に囲まれた約50ha）では「大和田二・三丁目地区土地区画整理事業」が施工中です。業務用開発の事業で、既に区画工事が終わった部分では建築工事も始まり、巨大なクレーンが立ち並んでいます。地区内に含まれますが、川沿いに大きな煙突が2本立つ施設は、志木・新座・富士見の廃棄物処理を行う志木地区衛生組合の新座環境センター。かつて畑が広がっていた地帯は、すっかり様変わりしてしまいましたが、工事現場に囲まれて一つだけ残された異様な墓地は、かつて行われていた両墓制（遺体を埋める埋め墓と霊を祀る詣り墓が別の場所にある）の埋め墓だった三本木墓地で、川越街道の下流側の普光明寺に詣り墓がありました。

河川敷の開発計画

区画整理地区に接した柳瀬川河川敷では埼玉県と新座市による利用計画が進んでいます。新座市の観光都市ビジョンに沿ったもので、現在の高水敷には草木が茂っていますが、これを伐採整地し、多目的広場・バーベキュー広場・わんぱく広場・親水護岸等を整備するもので、環境よりもにぎわい優先の計画のようです。（天田 眞）



1. 清瀬下宿ビオトープ公園



2. 水再生センターの放流口



3. 河川敷開発の現場

8月13日(日)

親子劇場子どもまつりに参加して

5月13日(日)に、「志木親子劇場子どもまつり」が行われました。会場は、志木ニュータウンの館近隣公園で、今年も柳瀬川水族館を出展しました。

8時頃から、柳瀬川の富士見橋下流で胴長を着て川に入り、展示用の魚を捕ってきました。出展した生き物は、前日天田さんが捕ったものも含めて、定番のヌマチチブやウキゴリのほか、シマドジョウやタモロコの稚魚、ハグロトンボとヤゴ、スジエビやカワリヌマエビなどです。運よく朝羽化したハグロトンボやアカミミガメの子供(ミドリガメ)も展示でき、いつもと違った関心を得ることができました。

毎年、この子どもまつりには出展していますが、水族館はとても人気があり、子供連れの親子が見に来てくれます。大人も、柳瀬川で捕れた魚が多いことに驚く人も結構多いのです。出前水族館などを通して市内を流れる柳瀬川を理解してもらうことは、きれいな川作りにも役立つ大事な事業だ



と思います。朝から、空模様が心配でしたが、何とか13時頃までは、雷が鳴っている程度で済みましたが、ついにパラパラと大粒の雨が落ちてきて、早めの終了となりました。この日の、水族館員は、天田さんと私の2人でした。

(青木明雄)

柳瀬川の美化活動

柳瀬川の美化活動として、毎月1回、志木中学校前の柳瀬川の河川敷のゴミ収集を行っています。実施時間は、朝9時から9時半までの30分間です。4月は4月14日(土)、5月は5月19日(土)に行いました。その方法はいたって簡単で、手に軍手などの手袋をはめて(素手の人もいますが)、河原や川岸を歩き回って落ちているゴミを拾い、各自持参したビニール袋(大きめのレジ袋など)にゴミを収集するというものです。最後に、各自のゴミを全部集めて、可燃ゴミとビン・缶などの不燃ゴミに分けて作業は完了となります。

落ちているゴミは、川岸の釣り人や河川敷で遊ぶ人が捨てたゴミもありますが、多くは上流から流れ着いたゴミで、プラゴミ類が多くを占めます。したがって、美化活動の前に雨が降り、川が増水するとゴミが増えることになります。これらのゴミが更なる雨で海まで行き着き、海洋プラスチック汚染の原因となったり、マイクロプラスチック



[写真：青木明雄]

化して海洋生物に影響を与え、ひいては人にも影響を及ぼしたりするのではないかとついつい余計な心配までしてしまいます。そんな心配までせずとも、朝のほんの30分で河原がきれいになると、なんとなく心も清々しいものです。(林 秀樹)

川のボランティア体験講座を行いました 〈埼玉県水環境課 加藤 恭子〉

平成 30 年 3 月 10 日（土）、志木市の柳瀬川において、「川のボランティア体験講座」を開催しました。エコシティ志木と水環境課の主催で、市内外の大人から子供まで、23 名にご参加いただきました。

まず室内で、柳瀬川の特徴や自然について会員さんから学びました。生き物講座では、カワセミやサギ、イタチやタヌキも観察されるとのこと、柳瀬川の豊かな自然に皆さん感激されていました。「こんなにたくさんの生き物が身近にいること知りませんでした」と、地元の方にも再発見があったようです。

座学後は、河川敷でゴミ拾いを体験しました。足元には、オオイヌノフグリやホトケノザの花が、また水中には「カエルがいる!」と発見された方も。春の訪れを感じられました。

地域での交流もボランティアの醍醐味です。会場をお借りした志木中学校では、部活動中の生徒さんが大きな声で「こんにちは!」と挨拶してくれ、



〔写真：青木明雄〕

河川敷ですれ違う方々とも会話が生まれました。1km 程を歩き、大きな袋 3 袋分のゴミが集まりました。「初めてのボランティア、とてもいい経験になりました」との感想も頂きました。ボランティア活動の、そして志木市の魅力に触れた一日でした。

志木の生き物調査に参加して —— 庭野 恵子

3/18 中宗岡 下宗岡周辺

宗岡公民館～すみれ児童公園～下宮氷川神社～新田治水広場～樋之詰児童公園～宗岡公民館のルートで調査。

宗岡三小前の旧堤防では陽をたっぷり浴びた、カントウタンポポやオオジシバリ、クサノオウの黄色の花々を、新田治水広場の生垣や植栽で独特の臭いを発するヒサカキの花を観察、広場内の小さな池のそばでヒメスミレの花を確認。神社や公園では定番の樹木を観察。神社近くの開花目の桜の木々にヒヨドリが集まっていました。

5/20 柳瀬川と 水谷田んぼ

河川敷のあちこちに紫のナヨクサフジが群生。昨年は見られなかった光景です。土手や法面いっぱいには広がるカラス

ムギが枯れ、風になびいていました。(カラスムギ、イヌムギ、ネズミムギの見分け、進歩しました。)



〔写真：青木明雄〕

水谷田んぼでは、春の七草の一つであるホトケノザ（コオニタビラコ）、オニタビラコの両種を比較観察。万葉集の「若菜」であるというヨメナ摘みも体験。また、「キジの草隠れ（頭隠して尻隠さず）」を目撃。頭上の高いところはかなり長い間ホバリングしながらさえずる「揚げひばり」にも遭遇。繁殖期の縄張り宣言とのことですが、祝福を受けた気分でした。

いろは通り南側(下宗岡3・4丁目)の自然を訪ねて！

NPO法人エコシティ志木事務局長

青木 明雄



いろは通り沿いに残る田んぼ

今回は、「いろは通り」の「秋ヶ瀬運動公園入口」交差点から「秋ヶ瀬橋」交差点までの南側を散策します。

この地域は、下宗岡3丁目の一部と4丁目になります。まずは「秋ヶ瀬運動公園入口」の交差点から、「秋ヶ瀬橋」交差点に向かって歩いていきます。次の信号の「下宗岡3丁目」までの南(右)側には、レンタル倉庫やコインランドリーと農家などがありますが、田んぼと畑もかなり広く残っています。「いろは通り」と並行して走っている南の通りまで田畑が広がっているところもあり、視野の広い緑の空間が残っています。途中にレンタル倉庫とコインランドリーの間の交差点から右に入る道があります。屋敷林と畑の垣根に挟まれ、農村の道を感じさせる通りとなっています。短い道ですが、この雰囲気は気に入っています。「下宗岡3丁目」の交差点から先の「いろは通り」は、荒川土手の「秋ヶ瀬橋」交差点に向かって、緩く左にカーブしながら登っていきます。この坂

を見ると、荒川の土手がいかに高いかを感じさせられます。一方、脇の道路はそのまま真っすぐに伸びていて、大きな倉庫の先には広い田んぼが広がっています。その先の道路を渡った荒川土手沿いの道路まで、田んぼや畑が広がっています。散策したときは田植えも終わり、カルガモが田んぼの中を歩き回り、カエルも大合唱を繰り返していて、目と耳で自然を楽しみました。倉庫の周りに広がる田んぼは広く、一角を切り取るように「秋ヶ瀬児童公園」があります。道を隔てた農家の庭先にも畑がありますが、その先からは、宅地の他、倉庫や運送業、建築業など会社があり、緑地はありません。「秋ヶ瀬橋」交差点から右に曲がり、土手沿いの



農村の雰囲気残る道



秋ヶ瀬橋交差点からの眺め



秋ヶ瀬橋児童公園



下ノ氷川神社



新田治水広場

道路を歩きます。その先の朝霞市との境のところで更に右に曲がります。荒川の土手はかなり高いことから、その緑の斜面も広く、野草や昆虫・鳥などにやさしい空間となっています。また、眺めも良く、市内は勿論、遠く秩父の山々や富士山までも見ることができます。朝霞市との境ともなっている道路は、宗岡をぐるりと囲っている江戸時代の堤防の一部で、「新田堤」と呼ばれています。この道路を、宗岡第二中学校に向かって歩いていきます。右手が、志木市ですが、左手の少し先は朝霞市です。志木市側には、住宅や会社の建物が立ち並んでいて、草木の広がる空間はありません。左側は、志木市の部分も含めて、農地や草地となっていて、建物はありません。

道路と同じ高さとなっている農作地の部分は、ほとんど志木市になっています。貸農園は手入れがいいのか青々としていました。その先は低くなっていて、朝霞市の部分となっていますが、下ノ氷川神社近くは志木市の部分も低いままとなっていて、ほとんど耕作されていない草地となっていました。下ノ氷川神社は、旧堤防の高さと同じになっています。江戸時代中期から住んでいるという方から伺ったところ、神社全体を土盛して平らにしたのは、明治初期だったそうです。神社の裏はうっそうとしていて、入っていきません。この神社には、雄と雌の大きな銀杏があり、秋には紅葉がとてもきれいです。隣の宗岡第二中学校側にも大きな銀杏があり、紅葉がとてもきれいです。下ノ氷川神社入り口と反対側の土手下に「新田治水広場」があります。大雨の時には、水がたまるようになっています。脇にはそのための

用水路があり、柵がしてありますが水路の両脇は雑草地となっています。いつも水が溜まっている小さな池もあります。この入り口から宗岡第二中学校前の「新田堤」は、桜並木となっていて、夏は木立に覆われた涼しい道路となっています。桜並木の間は駐車場として利用されています。秋には真っ赤に紅葉するもみじもあり、とてもきれいです。宗岡第二中学校前には、宗岡からの用水路の竈門樋があります。この門樋は、埼玉県に現存する唯一の石造りアーチ形樋門です。この用水路脇は、桜並木となっていて、とてもきれいです。春には、ツクシが沢山芽を出します。出発点の「秋ヶ瀬運動公園入口」交差点に向かって、下宗岡3丁目の中を戻っていきます。下宗岡3丁目内には、沢山の農地が残っていますが、少しずつ宅地化され、分譲住宅が多くなりました。途中の田んぼの周囲も新築の住宅が立ち並び、まだ建築中の建物や販売中の物件もいくつもありました。そんな中で、田んぼの脇で重機による整地が行われているところもありました。公園もなく建物だけが立てられており、あっという間に緑地がなくなってしまうそうです。一寸残念な思いで、「秋ヶ瀬公園入口」の交差点まで戻りました。今回の散策では、変わりゆく前の貴重な環境を写真に収めることができたのでは、ないかと思います。



宗岡第二中学校前道路(旧堤防)



無くなりゆく田んぼ

5月26日(土)

外来植物駆除 (カヤネズミ原っぱ)

5月26日、カヤネズミ原っぱでの今年度第1回目の外来植物除去(オオブタクサの抜取り)作業を行いました。参加は4名でしたが、圧倒的なオオブタクサの繁茂に対し、もう少し参加者が欲しいところです。昭和の堤防に沿って、上流側から下流側まで一帯に繁茂しています。また、クワの木の陰など、オギやヨシが少ないところでも繁茂しており、早くも背丈を超えるほどです。天田さんによれば、昨年よりも多いとのこと。一昨年秋の大水で、一度は根こそぎにされたと思いましたが、むしろ種子が広く散布される結果になったのではないかとのことです。

当日は気温もそれほど高くなく、作業には適していたのが幸い。やや上流側のクワの木の木陰で集中的に抜取りをおこないました。

オオヨシキリの賑やかな囀りに励まされ、また時折、小学校の運動会のアナウンスが聞こえてきたり。途中で天田さんがカニノツメという珍しいキノコを見つけてくれました。



[写真：青天田眞]

抜取りの本数は稼ぎましたが、面積ではわずかな範囲にとどまります。皆さんの参加を得て、今後もオオブタクサの抜取りに取り組んでいきたいと思います。是非ご一緒にやりましょう。

(鈴木民雄)

5月19日(土)

外来植物駆除 (柳瀬川)

5月19日(土)の午前中、柳瀬川河川敷の外来植物駆除を行いました。

実施場所は富士見橋と東武東上線鉄橋の間の柳瀬川の河原で、駆除対象はオオブタクサです。オオブタクサは一年生の草本で成長すると5mを超えるほど大きくなりますが、この時期は大きくても1m程度であり、力を入れて茎を引っ張れば根から引き抜くことができます。とはいえ雑草が繁茂する日中の河川敷は相当蒸し暑く、その中で黙々とオオブタクサを抜いていると汗がにじみ出てきます。帽子などの直射日光を避けるための手立てとこまめな水分補給が、この作業には欠かせません。

参加された方々の手際のよい作業により、予定したエリアのオオブタクサを小一時間ほどで引き抜くことができました。以前から駆除している場所にはヨシの群落が復活している所もあり、相手



[写真：青木明雄]

が繁殖力の強いオオブタクサとはいえども、地道に継続して行えばきっと良い成果につながるのではないかと思います。

駆除作業終了後は、ナヨクサフジ、シロツメクサ、ムラサキツメクサ、チガヤなどの花が彩る河川敷で野草観察を行いながら、集合場所の志木中学校前まで戻りました。

(林 秀樹)

生き物情報は → ホームページ「発見!! 街の自然」<http://kappa-no.net/sizen-info.html>

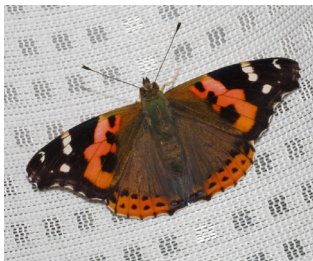
- ① アカタテハ → 5月 10日(木) 西原斜面林で幼虫が 20頭くらい。一部飼育したところ 22日ごろから次々に羽化 [天田 眞]
- ② ジャコウアゲハ → 5月上旬から自宅庭のウマノスズクサで幼虫が次々に生まれ現在 20頭くらい [天田 眞]
- ③ ハグロトンボ → 5月 12日(土) 翌日のこどもまつりで展示する魚捕りをして保管していたら、翌朝に羽化 [天田 眞]
- ④ ホトトギス(鳴き声) → 5月 15日(火) 16日(水) 午後 10時頃東の森壺番街で柳 瀬川方向から聴こえた [天田いづみ]
- ⑤ アオダイショウ(1) → 5月 19日(土) 柏町 6-2の住宅地の道路(1.5m位) [天田 眞]
- ⑥ ツバメ → 5月 20日(日) 水谷田んぼにて耕運機の後ろで、虫を狙って飛び交っている状態 [青木明雄]
- ⑦ キジ(つがい) → 5月 20日(日) 午前 10時 47分水谷田んぼにて [青木明雄]
- ⑧ ヒバリ → 5月 20日(日) 水谷田んぼにて [鈴木民雄]



⑥ ツバメ [青木明雄]



⑦ キジのつがい [青木明雄]



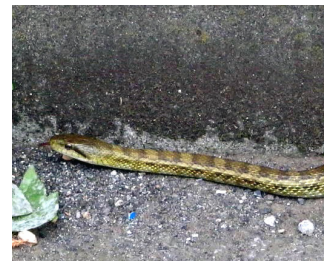
① アカタテハ [天田眞]



② ジャコウアゲハの幼虫 [天田眞]



③ ハグロトンボ [天田眞]



⑤ アオダイショウ [天田眞]

環境 ひとくちメモ (48) 伊藤 智明

「埼玉県レッドデータブック動物編 2018 (第 4 版)」

埼玉県は、2018 年 3 月に「埼玉県レッドデータブック動物編 2018 (第 4 版)」を発行しました。このレッドデータブックは、県内で絶滅のおそれのある野生生物をリストアップし、その現状を解説しています。

昆虫類のノウサゲ目が増えたことが大きく影響し、掲載種数は前回 2008 年版の 787 種から 842 種 (内訳: 哺乳類 23 種、鳥類 115 種、爬虫類 12 種、両生類 15 種、魚類・円口類 14 種、無脊椎動物 663 種) に増加しています。この 842 種は、県内在来生種 12,375 種のうち実に 6.8% に当たり、特に、爬虫類・両生類については、在来生息種のほとんどが絶滅の危機にさらされています。

その他の特色としては、「最新の生物分類群になってリストを整理」、「種毎の解説について、分類群別にレッドランクの高いものから掲載」、県内在来生種の見直しに伴う、埼玉県レッドリストに掲載すべきでない種の整理、「リストから外れた種の解説を追加」などがあります。

なお、レッドデータブックについては、県政情報センター (県庁衛生会館 1 階) で販売しており、埼玉県内の書店でも取り寄せできますが、埼玉県のホームページにも後日掲載される予定です。

カテゴリー一覧

EX	絶滅
EW	野生絶滅
CR+EN	絶滅危惧IA類
CR	絶滅危惧IA類
EN	絶滅危惧IB類
VU	絶滅危惧II類
NT	準絶滅危惧
DD	情報不足
LP	地域個体群
RT	地帯別危惧

【参考】 埼玉県「報道発表資料「埼玉県レッドデータブック動物編 2018」の発行について」
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0001/news/page/2018/0426-01.html>
 埼玉県「希少野生生物 (レッドデータブックなど)」
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0508/red/index.html>

☆会員状況

2018 年度更新済み (5 月 24 日現在)

正会員(個人) 34

正会員(団体) 1

賛助会員 1

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2018 年度の継続更新、引き続きよろしくお願いいたします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

志木市放課後子ども教室りんくす

志木市立教育サポートセンター

市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

『いきもの図鑑』作業状況

二校版6月末を目指して進行中

前回の春号で、4月にはAチーム分を含めた二校版の印刷ができるのではないかとお伝えしましたが、まだ印刷まで至っていません。既に初校版ができていたB・Cチームの校正に手間取ったことや打ち合わせが繰り返し延べになったことが遅れの原因となっています。現在は、レビューでの指摘事項を、校正紙へ書き込む作業を進めています。書き込み結果を確認していくと、またまた気になった部分が出てきてしまい、その内容を更に、議論して反映していくということになるので、区切りがつけにくいのが実情です。残りは次回に持ち越し、区切りをつけて全掲載種を編集した二校版の印刷を行い、全体の姿を早く確認したいと思っています。そろそろ区切りをつけて、6月末には2校版の印刷を行いたいと考えています。今回の図鑑は、掲載種の数が多いのと、記述文や画像も多いので、感覚的な記憶では無理があります。その都度、決めた結果を記録に残して進めています。夫々のチームが、最終結論となった内容の管理をしっかりと行っていくことが重要です。プロジェクトメンバーでの意見や検討結果を間違いなく反映してより良いものに仕上げていきたいと考えています。

(青木明雄)



ヒトリガとは、灯りに来る「灯取蛾」という意味。この仲間が多いのはアメリカシロヒトリで、昨年は志木でもサクラなどでよく見られました。戦後、アメリカ軍の物資に付いてきたといわれ、様々な樹木を好む多食性で、全国に広がりましたが、生態系が安定した森には侵入していません。

一度に大量の卵を産み付け、若齢の時は、糸を張って一定の枝葉の部分で囲んだ巣をつくり、その中で成長します。この時期なら巣の部分を取り除けば簡単に駆除できますが、成長すると巣を出て拡散してしまいます。終齢には長い毛をたくさんつけた毛虫となって、蛹になるために木を下りてきて嫌われますが、毒などは全くありません。成虫は開帳3cmで、白一色のものと黒い紋を散らしたものがいます。

この黒い紋を散らした成虫にそっくりで、

わずかに大きいのがキハラゴマダラヒトリで結構見かけます。普通にとまっていると翅に隠れて見えませんが、腹部背面が黄色い模様になっています。幼虫は黒い毛虫でクワ・サクラ等を好みます。これとよく似て、腹部背面が赤いのがアカハラゴマダラヒトリ。同様に腹部背面が赤いが、翅は白一色か黒い紋が2~4個一列に並ぶのはオビヒトリ。腹部の側面に赤い模様が並ぶのはシロヒトリ。というわけで、翅を閉じているだけではわからない同類が多種います。

カノコガは昼間にゆっくりと地表近くを飛びます。翅の模様の白い部分は半透明。幼虫は小さな黒い毛虫でタンポポやシロツメクサなどの葉などを食べますが、枯れた葉も好むようです。

翅の模様がきれいなスジベニコケガの幼虫はコケや枯葉を食べるそうです。



アメリカシロヒトリ若齢幼虫



アメリカシロヒトリ終齢幼虫



アメリカシロヒトリ成虫と繭・蛹



キハラゴマダラヒトリ幼虫



キハラゴマダラヒトリ



シロヒトリ



カノコガ幼虫



カノコガ成虫



スジベニコケガ

小笠原の旅

宇津木 美恵子



その8 海—シーカヤック

母島ではシットオンカヤックを借りて、ワイビーチという浜まで往復8キロほどを漕ぎました。父島ではカヤックのガイドさんのツアーで、無人島まで漕ぎ、シュノーケリング。

今回は一日目は南島、二日目は西島、人丸島という無人島まで行きました。

南島という無人島は、保護のため認定のガイドさんの同行なくては上陸できません。また海も、潮の満ち引きにより強い海流が生じるため、ガイドさん無しではとても危険です。

海の中は、まるで水族館。横縞の愛らしいロクセンスズメダイ、黄色で目立つキイロハギ。大きな図体のナンヨウブダイ、熱帯魚の代表的な形のツノダシ。昼間は寝ているから安全というネムリブカも、ジョーズの姿をしていて怖くて、目を合わせないようにとドキドキしました。

さらに、父島の扇浜での出来事です。エメラルドグリーンの海面が一部グレーに見えるので、きっと雲の陰だろうと思っていたらとんでもない間違い。グレー領域に潜ってみると大漁のイワシの群れの中に侵入していました。

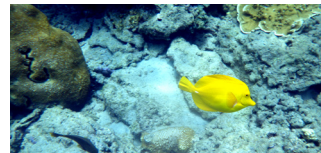
挙げるとときがありません。シュノーケリングで百倍以上、小笠原の海の世界を味わうことができました。



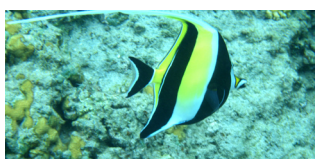
ワイビーチ（シーカヤック）



ロクセンスズメダイ



キイロハギ



ツノダシ



イワシ群れの影



シーカヤック



イワシの群れ（動画からの切り出し）



シュノーケル

編集後記

◇昨年度は、残念なことに雨で中止となる
ことが多くありました。掲載予定の「志木
の自然観察（春）」と「柳瀬川ぶらり散歩」
も、残念ながら雨で中止となってしまいま
した。代わりの記事として「柳瀬川の美化
活動」と「親子劇場こどもまつりに参加し
て」の記事を載せさせてもらいました。参
加のお役に立てばと思います。（青木明雄）

エコシティ志木通信

第90号 2018年6月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338（天田眞）

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com